

会 議 録	
■会 議 名	令和 6 年度第 1 回淡路市子ども・子育て会議(第 28 回会議)
■日 時	日時: 令和 6 年 5 月 20 日(月)午後 1 時 30 分～
■場 所	津名ふれあいセンター2 階 会議室 3・4
■進 行	1. 開会 2. 報告事項 (1) こども家庭センター開設について 3. 協議事項 (1) 子ども・子育て支援事業計画(第 3 期)のニーズ調査速報結果について 4. その他 (1) 次回 淡路市子ども・子育て会議(第 29 回)の開催について 5. 閉会
■協議内容	3. 協議事項 (1) 子ども・子育て支援事業計画(第 3 期)のニーズ調査速報結果について ○事務局説明(コンサル、担当者) ○質疑 委員 経済的なこと。皆さんに(負担が)かかっている。市からの支援を定期的にしていただけたら。収入が少ないから働く。労働時間が増えると子どもに負担がいく。 委員 収入も恒久的にほしい。小さい子の雨の日の遊び場が少ない。市内に雨の日に遊べる施設があれば。 委員 今年働こうかなと思ったが、保育料を考えるともう 1 年、第 3 子、第 4 子を家で看ることにした。もう少し保育料を見てもらえないかと思う。 会長 データと一致している。 委員 アンケート調査の市の子育て支援に対する満足度。普通が多く、ポジティブが少ない。目立ったものがない。明石市の子育てセンターでは、あれこれ書いてある。いろいろ揃っていると思うが、(保護者に)届いていないのではないか。みんな綱渡りでぎりぎり子育てしているのではないか。雨の日と土日に遊ぶところがない。明石に行くと交通費がかかる。 会長 保育料は公的な部分に関与しないといけない。 委員 遊び場の問題は以前からあった。行政も気にかけていると思うが、なかなかいい方向に行っていない。理想の子ども的人数 3 人という回答はうれしい。市よりは国に言ってほしい。あるお母さんから「学童保育を 30 分延長してほしい」という意見があった。東浦と津名は何人預けているのか。ないものは「欲しい」と言うが、作って実際にどれだけ活用されているのか気になる。 会長 学童保育の利用状況は? オブザーバー 土曜日は津名と東浦にしているが、他の地区でも入れる。数字は少なく、他の地域から支援員が来ている。保護者は送迎が必要なので難しいのかもしれない。もう一か所検討していきたい。現状土曜は少

ないと聞いている。延長保育、利用したい人は少数。今年度の利用希望を聞こうと思う。7時まで延長なら支援員の確保が必要。我々だけで決められない。会計年度の契約行為になる。実際どれだけ利用した
いかの確認が必要。

委員 不登校児を抱えているお母さんの話。青少年センターのようなところに行ってみたが学校と同じだったので行きたくないと。行きたくなるような内容になっているのか。教科書だけでなく、自分の居場所として嬉しくなるようなものにならないか。

委員 授業だけでなく、レクリエーションなどもしているのではないか。

オブザーバー 不登校児は全国で増えている。昨年度から文科省が動いている。学力保障も必要。学習が無理な子どもはゲームなど個別に応じたプログラムを提供する。今年度から全国に先駆けて兵庫県が全中学校に不登校サポートルームを設置している。全国的には不登校特例校いうのもある。どこまで生徒の多様化に対応できるか。さまざまな形で取り組んでいる。

オブザーバー 青少年センターを管轄している。センターには学校長から推薦をいただいて登録する。学校よりも自分たちのやりたいことをやるが、保護者からは「学力が遅れないように」という要望がある。センターに通うと学校の出席日数にカウントされる。今は学校へ行くだけが目的ではなく、学校以外の学習の場を提供する。家で学習するという人もいる。教育委員会としては、学校に行くか行かないかは個人の判断。センターから学校へ復帰する例もある。

会長 満足度でネガティブな回答が多いということだが、今説明があったようなシステムを我々は全然知らない。もし何かあったらこういった社会支援があると知れば、安心感がある。子育てハンドブックなどで情報をもっと広報すれば、満足度の向上につながるのではないか。

委員 (不登校の娘さんの)お母さんには、こちらに来たい場合は18歳まで受けますよと返事した。

委員 アンケート調査の配布は保育園でもらったので(報告書の記載を)書き直していただいたら。調査票を3枚いただいた。保育園を利用しているが、一時預かりが定員のために利用できないなどハードルが高い。希望者が弾かれているのではないか。学童保育が6時まででなんとかやっている。選択肢が増えたらいい。土曜日の学童は利用者が少ないので子どもがつらい。志筑に住んでいるので自転車で行けるが他の地区からだと大変だと思う。土日に遊ばせるところがあると助かる。みんないろいろ折り合いをつけている結果としてのアンケートの回答だと思う。情報がもっと入ったら。行政として頑張っていることをアピールしてはどうか。ありがたいと思っている。

委員 (アンケート結果を見て)やっぱりそうだなと思った。そこそこやっていけてたら「普通」。いろいろ問題は出してもらったほうがいい。行政には言っても行かないとしてくれない。育児休暇の父親の取得率で「職場に取りにく

	い雰囲気があった」は問題。取りやすい雰囲気になったらいいと思う。長期休暇中の学童保育について「必要ない」の回答が多いのはなぜかと思う。 オブザーバー 長期休暇中の学童保育は、ルールとか外遊びを控えたりなどで、ストレスに感じることもある。そうならないように工夫しているが。小さい子は兄弟が看たりする。 委員 洲本市は長期だけの募集がある。淡路市は通常通っていないと利用できない。長期だけ預けられれば通常預ける人が減る可能性がある。特に低学年は助かると思う。 委員 第一子は夏休みに登録したが、午前中だけ行った。今は家にいる。今年の夏休み4人見るのは今から恐怖。夫の実家を頼ろうかなと思っている。そのときそのときでやっていく。 委員 このままなら利用しないかもしれない。不登校の制度について聞いて安心した。子どもが発達に少し不安があり、園の先生がサポートしてくれた。少数派になって初めてわかった。ひだまりの情報などをもっと打ち出したら満足度が上がるのではないか。学童については、子どもが大人数だと疲れやすい。経済状態で親の選択肢が変わる。 委員 今年から健診の後で全員にチラシでPRしている。見せ方、つなぎ方がわかりやすいように伝えることが必要と思う。妊婦全員に面談してアンケートをとっている。センターが個別支援をするが、妊娠中から、保育所に入れるかどうかの相談が多い。どれくらいお金がかかるとか見通しが立たないことが子どもを産まない理由ではないか。保育所も預けられないのでは、というイメージがある。その人に合った見通しを伝えられるシステムになれば。 会長 感じていることなど何かあれば。 委員 今年は入れますか、という問い合わせはある。 副会長 身につまされる。育休が「1歳以上2歳未満」が多く、1歳2歳からの入所希望が多い。そこまで育休が取れているのは良いこと。自営とか6か月からの希望も増えている。生まれる前から入所できますかと聞かれる。育休制度は職場で男性にはまだ出していないからどうなるのかと思う。広報についてはいつも意見が出る。ハンドブックも良くなっているがまだまだ。口コミでも広めてもらえたら。ニーズ調査結果は全部載るのか。 事務局 前は全部、今回も全部載せる。ご希望があればクロス集計など追加する。特になければそのまま冊子にする。 副会長 冊子は誰が目にとめるのか。 事務局 市のホームページにも掲載する。 副会長 保護者の方々にはせっかくご協力いただいたので、掲載していただけたらと思う。 委員 父親の育休については。 事務局 (取得率は)5年前は1パーセント台、今回10倍以上になっている。行政も増えているので民間にどれだけ普及するか。
--	---

	委員 実際が増えてきた。取れるのはまず公務員、自営業は難しいかもしれない。あるお父さんは、2年前は取れなかったのに、今回は育休とってくれと言われたと。 会長 話はつきないが、父親の育休は商工会と連携しながら推進しては。今回の調査から何をニーズとして拾っていくか。学童保育のシステム、長期休暇中の問題。他市との調整。雨の日の遊び場。利用されなければ宝の持ち腐れだが、お母さんたちの選択肢があればいい。 委員 この調査は、ニーズを把握する良い機会。ご意見を真摯に受け止めたい。意見を集約して施策に持っていける。合併当時は学童保育は一宮と北淡にはなかった。一時預かりも公立は無かった。保育時間は多くは4時に終わっていた。6か月児の入所も合併後。子育てハンドブックも毎年改良して今に至っている。ご意見にできるだけ応じていきたい。今後とも忌憚のないご意見をいただきたい。 4. その他 (1) 次回 淡路市子ども・子育て会議(第29回)の開催について ○事務局説明 5. 閉会あいさつ(三浦副会長)
--	---